



ちょうじゅうぎがをしる

鳥獣戯画

を

知る

監修 土屋貴裕



←第1紙



←第2紙



←第3紙



←第6紙



←第7紙



←第8紙



←第11紙



←第12紙



←第13紙



←第17紙



←第18紙



←第20紙



←第21紙



←第22紙



←第14紙



←第15紙



←第16紙



←第4紙



←第5紙



←第9紙



←第10紙



←第19紙



←第23紙



『鳥獣戯画』の中でもっとも有名な巻

甲巻は、ウサギとサルの追いかけてこや、ウサギとカエルの相撲など、みんながよく知る場面が出てくる有名な巻です。この巻に登場する動物は、ウサギ、サル、カエル、シカ、キツネ、イノシシ、ネコ、ネズミ、キジ、イタチ、フクロウ（またはミズク）の11種類で、平安時代によく見られた動物たちです。

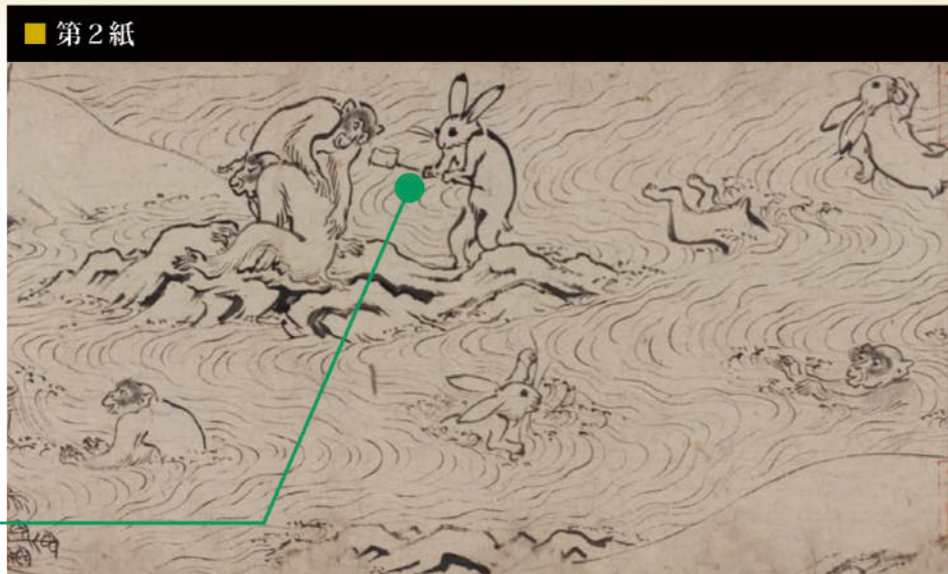
登場するほとんどの動物が、ゲームをしたり、祭りや法会（亡くなった人の供養や、僧侶の説法などの仏事）をおこなったりして、まるで人間のように見えるおもしろさ、おかしさがあります。

この巻は、第1紙から第23紙までの紙がなぎ合わされています。第10紙までと第11紙からは、紙質や筆づかいがちがうことから、絵をえがいた人は、少なくとも二人はいると考えられています。

動物たちは何を しているのだろう？

**読み解き
ヒント** ウサギとサルが
川で水遊びをして
いるようだ。岩の上には、ひしゃく
を持ったウサギがいるよ。ウ
サギはサルに何をしているのだ
ろう？

ここに
注目！



■ 第2紙

**読み解き
ヒント** 烏帽子をかぶっ
たカエルとネコ、
着物を着たウサギがカエルの
おどりを見学している。ウサ
ギの後ろに動物がかくれてい
るけれど、その動物は何を見
ているのかな？
* 烏帽子／黒ぬりの成人男性の
かぶりもの。平安時代は貴族
だけでなく庶民も使用した。

ここに
注目！



■ 第15紙 (部分)

かくれている
動物に気づくと、
ストーリーがわかるよ



詞書のない『鳥獣戯画』は、それを見る人が自由に
ストーリーを考えることができる絵巻です。擬人化さ
れた動物たちが見つかったら、次は動物たちが何をし
ているのかストーリーを考えてみましょう。ヒントは
持ち物を持った動物。まわりにいる動物たちの動きも
大事なヒントです。何をしている場面なのかよくわか
らないときは、絵巻の先を見ると答えが見えてきます。
ストーリーを考えたら、「鳥獣戯画を読み解く」第一
章を見て、比べてみましょう。

動物たちの持ち物や動作から、
ストーリーを想像してみよう！



■ 第13紙 (部分)

**読み解き
ヒント**

ウサギがサルを追いかけているようだ。なぜかな？
絵巻の先(第14紙)を見ると、追いかけてっことをし
ていた理由が見えてくるよ。

人間のようふるまう動物はどれ？



■ 第11～12紙 (部分)

袈裟をつけたサルと、サルにシカをわたすウ
サギは、人間のような行動をする擬人化され
た動物。シカは擬人化されていない動物。

シカ

ウサギ

サル



■ 第12紙 (部分)

カエル

手に物を持ち、立って歩くウサ
ギとカエルは、人間のようふる
まう擬人化された動物。一方、
カエルにたづなを引かれるイノ
シシは擬人化されていない動物。

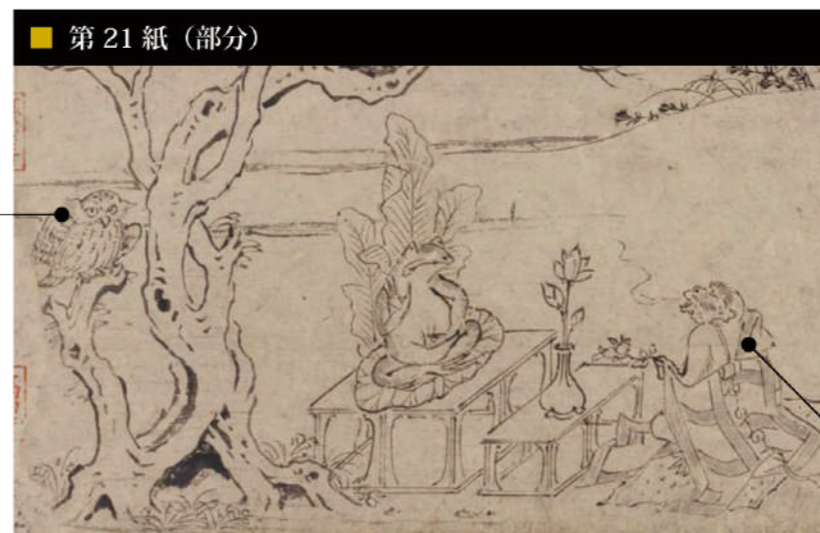
ウサギ

イノシシ

フクロウ
(またはミミズク)

経をとなえるサルは、人間の
行動やしぐさをまねる擬人化
された動物。フクロウ(また
はミミズク)は擬人化されて
いない動物。

■ 第21紙 (部分)



サル

擬人化された動物、
されていない動物

擬人化とは、人間でないものを人間に見立てて表現すること
です。『鳥獣戯画』の甲巻・丙巻に登場する動物の多くは擬人
化されていて、人間のような行動をとったり、しぐさをまねた
りしています。その一方で、擬人化されていない動物もいます。
まずは、甲巻に出てくる擬人化された動物、擬人化されてい
ない動物を見つけてみましょう。

甲巻の特色—人間のしぐさをまねる動物たち

ちがいの
その3

背中のもよう

前半の「第7紙」のカエルの背中は、2本の太いライン（ひだ）が強調されているが、後半の「第12紙」のカエルはラインが強調されていない。

第12紙（部分）



第7紙（部分）



私は前半、後半、
どちらに出てくる
カエルでしょう？



コラム

比べて
みよう！



前半と
後半でちがう
甲巻の絵柄

動物の立ち姿や背中
のラインに注目！

『鳥獣戯画』に登場する動物たちや人物は、四巻それぞれに個性的な魅力があります。とりわけ甲巻と乙巻は、太い線、細い線、こい線、かすれた線などを使いわけることで、生き生きとした動物の姿を表現しています。

また、甲巻の前半（第1紙から第10紙）と、後半（第11紙から第23紙）の動物たちを見比べてみると、絵のタッチが少しちがうことに気づきます。どこがちがっているのか、ここでは、前半と後半のウサギとカエルの絵を比較してみます。

甲巻はもともと2巻に分かれていた!?

『鳥獣戯画』には現在の絵巻とは別に、「断簡」と「模本」(→43ページ)があります。断簡は絵巻からぬけてしまった絵、模本はぬける前に絵巻から写し取った絵です。それらを現在の甲巻につなげると、とても長い絵巻だったことがわかります。ここでは甲巻の断簡を紹介します。

↓甲巻 第16紙



↓甲巻断簡 東京国立博物館蔵 出典: ColBase



背景どうしがつながることから、もとは第16紙の前にこの断簡があったことがわかる。

甲巻断簡 益田家旧蔵本 個人蔵



シカに乗ったサル、キツネに乗ったウサギが、「くらべ馬」というレース(→24ページ)をしていて、キツネたちが見学中。この絵と44ページの模本を見ると、レースの準備があったことがわかる。

甲巻断簡 高松家旧蔵本 石橋財団アーティゾン美術館蔵



レース中にサルがシカから落下し、にげるシカをサルが追う。

甲巻断簡 MIHO MUSEUM 蔵



レースに声えんを送るサルと、蹴鞠を見学する動物の親子。

ちがいの
その1

足の長さや形

前半の「第7紙」に出てくるウサギの足は短く、曲がっているが、後半の「第12紙」のウサギは足が長く、より人間に近い姿でえがかれている。



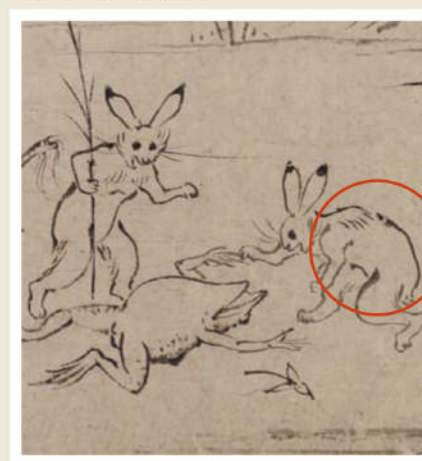
第12紙（部分）



第7紙（部分）



第14紙（部分）



第2～3紙（部分）



ちがいの
その2

背中
のライン

前半の「第3紙」のウサギの背中は一筆がきだが、後半の「第14紙」のウサギは肩から背中までと、背から尾まで続くラインを分けてえがいている。



なぜ①なぜ絵巻をつくったの？

『鳥獸戯画』は、なぜにつつまれた絵巻です。ふつう絵巻に書かれる詞書という説明文がないので、つくられた目的がわかりません。そこで、絵の内容を手がかりにして、絵巻がえがかれた目的を推理してみましよう。

絵巻には宮中の行事をおこなう動物が登場する

甲巻や丙巻の動物戯画には、平安時代に宮中でおこなわれた競技や、貴族の遊びがえがかれています。『鳥獸戯画』を見ると、宮中でおこなわれていた行事や、貴族の日常生活、流行していた遊びなどがわかります。

なぜ解きのカギ1

甲巻 第5～7紙(部分) 賭弓の対戦をするウサギとカエル



甲巻の賭弓のシーン。賭弓は天皇の前で弓を射る宮中行事の一つ。勝負に勝つと、膳に乗った食べ物をもたらされる。甲巻の第8紙～第9紙にも、食べ物を運ぶ動物たちがえがかれている(→11ページ)。

丙巻のくらべ馬のシーン。この競技は古くからあったが、奈良時代、平安時代に宮中行事になる。2、3頭でいっせいに走り、速さを競った。

丙巻 第11～12紙(部分) くらべ馬をするサル



丙巻 第17紙 蹴鞠をするカエルとサル



丙巻の蹴鞠のシーン。蹴鞠は、シカの皮でつくられたまりをけて地面に落とさないように、パスをつないでいく平安時代の貴族の遊び。

甲巻 第20～21紙(部分) 動物たちの法会



左は、甲巻の法会のシーン。サルの僧侶が経をあげ、真中に経をよむウサギとキツネの僧侶が見える。その右には参列者もいるようだ。おくにしているのは親族かもしれない。

丁巻 第13～14紙(部分) 法会をいとなむ僧侶



貴族の法会のシーン。第4～5紙にも、経をあげる僧侶のほか、ふたりの僧侶、参列者が登場する。

絵巻には僧侶や法会が出てくる場面が多い

『鳥獸戯画』には、僧侶や僧侶の法衣を着た動物がたくさん登場します。甲巻には擬人化された動物たちの法会、丁巻には貴族の法会もえがかれ、当時、仏事がどのようにおこなわれていたのか知る手がかりにもなっています。

なぜ解きのカギ2

丙巻 第3紙(部分) 将棋をする僧侶



丙巻には、囲碁、将棋、首引き、目くらべ、とりあわせ(闘鶏→24ページ)などを楽しむ僧侶が登場する。囲碁や将棋は僧侶たちの部屋でおこなわれているとも考えられている。

子どもに宮中行事や作法を教えるため？ 芸術作品として？

『鳥獸戯画』は、平安時代の貴族の子どもたちが宮中行事や仏教の作法を楽しく学ぶためにつくられたとも考えられています。

一方、『鳥獸戯画』と同時代の絵巻に、宮中の年中行事をえがいた『年中行事絵巻』があります。この絵巻は、平安時代末期に政治をおこなっていた後白河法皇の命令によってつくられました。法皇は、芸術作品や当時の流行歌である今様に興味を持っていて、特に絵巻づくりに熱心でした。

その影響を受けて、宮廷や仏教に詳しい人が、宮中行事や仏教をテーマに、楽しみながら見られる『鳥獸戯画』をえがいたのかもしれない。



後白河法皇の肖像 宮内庁三の丸尚蔵館蔵